

# 大韓民国母子保健プロジェクト 計画打合せ調査報告書

昭和61年 9 月

国際協力事業団  
医療協力部

医 療

J R

86 - 43



# 大韓民国母子保健プロジェクト 計画打合せ調査報告書

JICA LIBRARY



1045184[7]

昭和61年 9 月

国際協力事業団  
医療協力部

國際協力事業団

記入 年月日	'87. 1. 28	110
登録 No.	15904	98.7
		MC

## は し が き

大韓民国母子保健プロジェクトは、韓国における母子保健水準の全体的向上を目的として、昭和59年8月1日に5年間の協力期間をもって始められた。その到達目標は次の二つの点に集約される。第一に、順天郷大学内に韓国側の負担により設置された「韓国母子保健センター」に対し協力をを行いその機能を強化すること、そして第二に、同センターを中心とした全国的母子保健ネットワークを整備し、韓国全体の母子保健レベルを高めることである。なお、上記到達目標をめざして活動をすすめるにあたり、順天郷大学が私立大学であることから、協力効果が同大学のみにとどまらず広く韓国全体に及ぶように注意すべきである点が強調された。

かかる内容をもってスタートした本プロジェクトは昭和61年度をもってその第3年次をむかえた。その期にあたり、プロジェクトの中間的評価を行い、あわせて今後のプロジェクト運営のための指針と展望を得ることを目的として当事業団は昭和61年6月に計画打合せ調査団（森山 豊団長）を韓国に派遣した。本書はその報告書である。

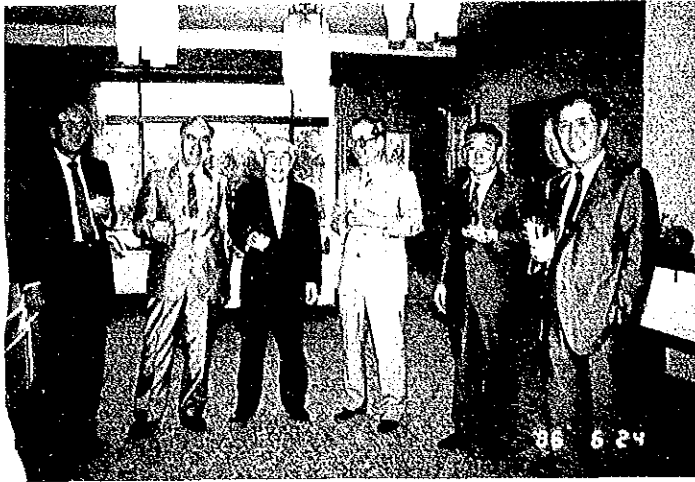
その報告の詳細は本文中に述べられているとおりでであるが、特に韓日両国の関係者各位のご尽力によりセンターの活動が着実に高められつつあること、また韓国官民共同の努力により全国的母子保健ネットワークの整備が進められていることなど、プロジェクトの順調な進捗ぶりが確認されたことはよろこばしい限りである。

ここに、あらためて、本プロジェクトに支援頂いている関係機関各位に対し心から御礼申し上げるとともに、今後とも引きつづき御指導御協力を賜るようお願い申し上げます。

国際協力事業団

理事 末永昌介





御巫大使をかこんで。  
右端から愈センター長，一人おいて徐理  
事長，御巫大使，森山団長，飯塚団員。

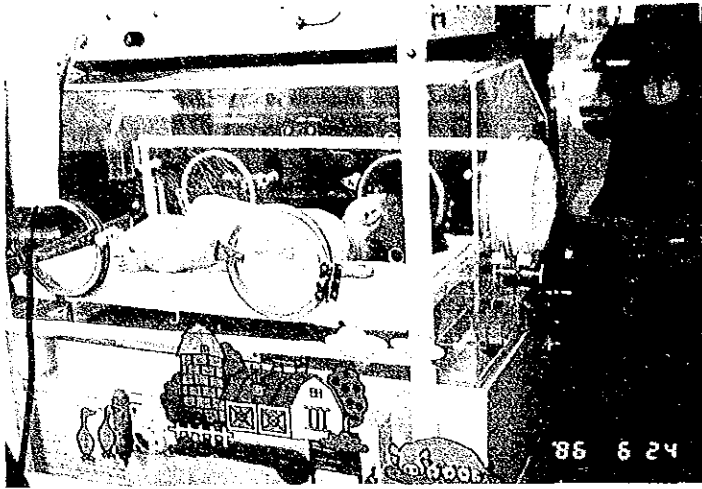
順天郷大学許学長表敬



愈センター長とJICAから供与された  
救急車

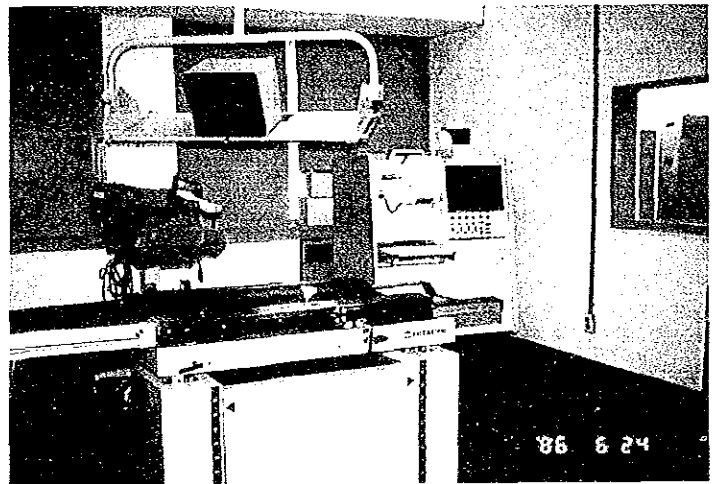






供与されたインキュベーター

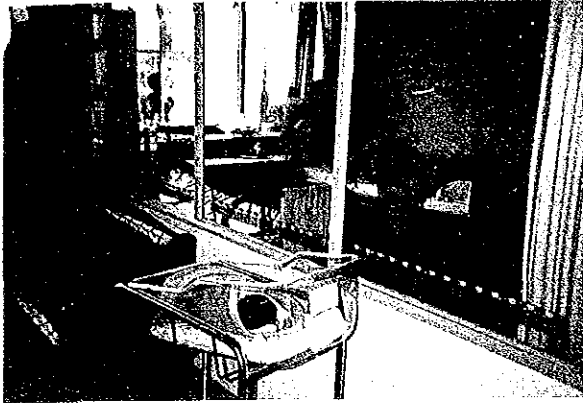
X線診断装置



妊産婦とともに



(以下 本文 P.7 - P.9 参照)



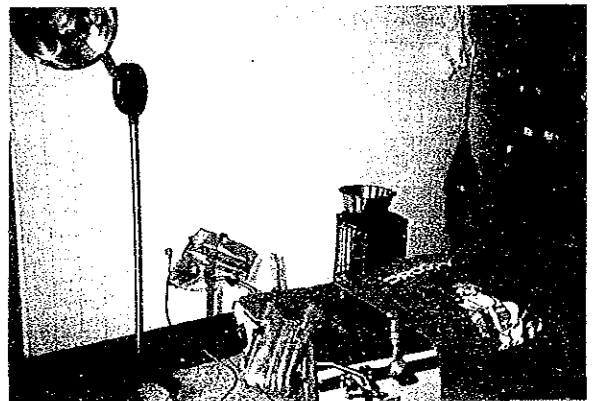
母子同室も工夫をこらしている



ナースステーション  
明るくて働き易いようだ



食堂 毎昼食は患者さんと対話しながらという



分娩室



# 目 次

はしがき

写 真

I. 調査団概要 .....	1
A. 構 成 .....	1
B. 日 程 .....	1
C. 派遣前協力実績 .....	2
D. 派遣の目的 .....	5
E. 主要面会者 .....	6
II. 調査結果 .....	7
A. センター稼動状況 .....	7
(1) 産婦人科（飯塚） .....	7
(2) 小児科（青木） .....	10
(3) 母子保健ネットワークの形成状況と本センターの位置付け（網野） .....	12
B. 昭和61年度活動計画 .....	14
III. 総 括（森山） .....	18
資 料 .....	20



## I. 調査団概要

### A. 構成

団 長 森 山 豊 (もりやま ゆたか)  
恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター所長

団 員 飯 塚 理 八 (いいつか りはち)  
慶応大学医学部産婦人科教授

団 員 青 木 菊 磨 (あおき きくまる)  
恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター  
愛育病院 小児科部長

団 員 網 野 豊 (あみの ゆたか)  
厚生省児童家庭局母子衛生課課長補佐

団 員 加 藤 宏 (かとう ひろし)  
国際協力事業団医療協力部医療協力課

### B. 日 程

月 日	時	内 容
6.23 (月)	11:25	JAL 973 便 金浦到着 (森山団長)
	12:15	JAL 951 便 金浦到着 (他 団員)
	13:40	HOTEL (HYATT) 到着休息
	14:30	日本大使館訪問表敬
	16:00	病院到着挨拶
	19:00	理事長主催歓迎夕食会 (HYATT HOTEL 龍宮)
6.24 (火)	10:00	第一次会議
	12:00	
	12:00	昼食
	13:00	第二次会議
	16:00	
	16:00	講演会
17:00	懇談会	
19:00		

6.25 (水)	10:00	温陽順天郷大学視察
	12:00	
	13:30	
	19:00	
6.26 (木)	10:00	地方 M.C.H.Center視察 (報恩-俗離山)
	15:00	天安順天郷大学 M.C.H.Center視察 (天安)
	17:00	Seoul 帰着 自由行動
6.27 (金)	09:30	第三次 総合会議  (森山 豊団長 JAL 952 便出発) 日本大使館報告, 市内見学, 資料整理 送別会
	11:00	
	13:30	
	15:00	
	18:00	
6.28 (土)	11:00	HOTEL CHECK OUT
	13:30	JAL 952 便 出発

### C. 協力実績 (調査団派遣前)

#### I. 研修員

59年度	小児科	Dr. Kim	(母子保健センター)	59.11.22~60. 4.21
	産婦人科	Dr. Lee	(慶応大学)	"
	臨床病理	Dr. Lee	( " )	"
60年度	新生児看護	Miss Shin	(母子保健センター, 慶大他)	60.11. 6~61. 2. 3
	産婦人科	Dr. Lee	(慶応大学 (飯塚教授))	60.11.25~61. 5.19
	小児消化器	Dr. Park	( " (小佐野教授))	60.12. 4~61. 5.31

#### II. 専門家 (機械据付専門家を除く)

59年度	生殖医学	飯塚 理 八 (慶応大学)	59.10.16~10.20
		河上 征 治 ( " )	"
	周産期医学	坂元 正 一 (東京女子医大)	"
60年度	胎児管理	名取 道 也 (慶応大学)	60.10. 2~10.13
	不妊症	小林 俊 文 ( " )	60.10.11~10.20

#### III. 機材供与

##### 59年度

1) 救急車	トヨタ	1 台
2) 新生児ウォーマー	トイッ PF-150	1 台
3) 胎児監視装置	NEC三栄 2J21	1 式
4) 描記式卵管水診断治療器	トイッ KH-600	1 台
5) 未熟児用保育器	トイッ C-86-A	10 台
6) 未熟児用集中看護保育器	トイッ C-86-B	1 台



7) 新生児人口呼吸器	トーイツ PB-800	1 台
8) 新生児監視装置	NEC三栄 2K01	1 式
9)       "	"	1 式
10) 電気孵卵器	サクラ精機 IF-3B	1 台
11) CO <sub>2</sub> インキュベーター	" IC-160	1 台
12) 小型高圧蒸気滅菌器	" ASV-3001	1 台
13) 血液ガス分析装置	真興交易 ABL-30	1 台
14) 移動型X線装置	日立メディコ シリウス100 B	1 台
15) 電子顕微鏡	日立 H-300	1 台
16) X線フィルム現像機	小西六 GX-300	1 台
17) ドップラ胎児診断装置	NEC三栄 2H-26	6 台
18) アミノ酸分析器	日立 835-30	1 台

60年度

1) 循環器X線検査システム	日立メディコ DH-1513T	1 式
2) 超音波診断装置	NEC三栄 2H-71	1 台
3) マルチモニター	" 2H-11	2 台
4) 自動細胞収集装置	サクラ精機 CF-12C	1 台
5) 全自動乾熱滅菌器	" HE-11	1 台
6) 電気定温乾燥器	" TK-11	1 台
7) 無痛分娩用麻酔器	トーイツ サンラック	1 台
8) 羊水鏡	"	1 台
9) メテクポータブルクベウス	" ACDC	1 台
10) ダブルウォール保育器	アトム V-82	1 台

昭和61年度協力計画

I. 専門家派遣

1. 小児循環器	森 彪	埼玉県小児医療センター	8.18 ~ 8.30
	森川 良行	慶応大学	11. 3 ~11.18
2. 生殖内分泌学	中村 幸雄	慶応大学	8.24 ~ 9. 6
3. 染色体分析・核形分析	木下 芳広	慶応健康相談センター	8.11 ~ 8.23
4. 先天性代謝異常	鈴木 健	東京都予防医学協会	10.20 ~11. 8
5. 地域母子保健	高野 陽	国立公衆衛生院	11. 3 ~11.18

II. 研修員

1. 産婦人科 (李 任順)	慶応大学	7. 3 ~12.24
2. 小児科 (片 復陽)	国立小児病院	7. 3 ~12.24
3. 麻酔科 (金 任)	慶応大学	7. 3 ~12.24

III. 機材供与

1) 周産期モニターシステム	日本電気三栄	1 式
2) 超音波洗浄装置	サクラ精機	1 式
3) 総合呼吸能自動解析システム	フクダ産業	1 式
4) 長時間心電図記録解析ユニット	フクダ電子	1 式
5) トランスカプセル	アトム	1 式
6) 保育器	アトム	2
7) 携帯型心電図長時間記録装置	フクダ電子	9
8) 輸液ポンプ	アトム	2

D. 調査団派遣の目的

1. 主として下記項目についてプロジェクトの中間評価を行う。
  - a. 母子保健センターの稼動状況
  - b. 母子保健ネットワークの準備状況
2. 61年度活動計画を策定する。
3. その他将来のプロジェクトの運営方針について全般的に意見交換を行い、今後のプロジェクト運営に資する。

E. 主要面会者

1) 順天郷大学

- ① 徐 錫助 理事長
- ② 俞 勳 母子保健センター所長, 産婦人科教授
- ③ 李 尚桂 小児科主任教授
- ④ 趙 泰鎬 産婦人科主任教授
- ⑤ 方 垵 予防医学主任教授
- ⑥ 李 仁沫 順天郷病院長兼神経外科主任教授
- ⑦ 南 澤昇 予防医学教授
- ⑧ 李 鍾勳 母子保健センター行政室長
- ⑨ 許 鈴 順天郷大学学長

他に帰国研修員6名及び本年来日予定者3名にも面会した。

2) 保健社会部

- ① 柳 元夏 保健局長

3) 日本大使館

- ① 大使 御 巫 清 尚
- ② 参事官 内 田 富 男
- ③ 参事官 下 村 正 之

## Ⅱ. 調 査 結 果

### A. センター稼働

#### (1) 産婦人科部門

(版塚理八)

1985年7月12日、日韓技術協力に依る順天郷大学韓国母子保健センターは開院式が挙行されて以来約1年近い年を闘じた、この間研修医の受入れ、専門家派遣、器材の供与等多少の遅れはあるものの順調に推移していることは同慶の至りである。今年度の調査団は開院後の事情を現地においてつぶさに視察し、現在迄の経過を評価し今後の展望、協力実行を挙げる資としたい、として臨んだものである。

本韓国母子保健プロジェクトが実施される前に危惧されたことは、一私立大学の施設への援助に対して、それが韓国母子保健の向上に幾許の寄与をなし得るかということであった。これは昭和59年1月に派遣された事前調査団の記録にくわしい。種々の調査、懇談の後に我が国の援助が韓国の母子保健の向上に役立つのみならず、日韓親善、友好に大きく寄与するとして推進されたのである。

また MCH Center 設立後は、医師、保健婦、助産婦等の training center 的存在となり、研修センターの役割を担ってほしい、重症度を取扱う terminal な役目を果たしてほしいなどを要望したものである。

#### 韓国母子保健センター (MCH Center) の外来・入院

1985年1月以来、及び MCH Center に移動しての産婦人科、小児科の月別統計をみると極めて順調に推移し、開院後の患者数は著増してまた高度の技術を要する手術も行われつつある。

MCH Center は150ベッド、小児科系100、産婦人科50(産2、婦1の比)で運営されている。分娩数、産科手術、婦人科手術その内容についても水準以上と評価される。従って周産期における対応は一応水準以上の機能を示していると云えよう。今後当初計画にもられた不妊症における microsurgery, IVF&ER などの高度の技術応用については、本邦において技術を習得された方々に期待する処が大きい。新築一年にも満たないので清潔なことは云うまでもないが、手入れの行届いていることには感心され、隅々まで掃除がされている。俞勲センター長が各国の病院を視察されて設計に当たられたことだけのことはあると思える。母子同室の場合でも新生児との間に注意可能な仕切りを設けてあるなどユニークである(巻頭写真参照)。

#### 順天郷大学韓国母子保健センターと政府母子保健事業とのかかわりあい

以上の経緯については資料1にくわしいが、当初、事前調査団及びR/D時に討議され展望されていたことが漸やく成文化され軌道に乗りつつあるとの感が深い。即ち、今年度4月8日に母子保健法(資料9参照)改正法律案が韓国会で通過したことである。母子保健事業の活性化に民間医療機関の本事業への参与根拠を明文化してその地位をノミネートしたことである。89個所の第一線母子保健センターを中心とした母子保健地域化事業に必要な13区域を設定し、その一線母

子保健センターを指導するセンターとして300ベッド以上の民間大学病院又は総合病院を基幹として指定した（現在10箇所）。この10箇所のうち3箇所①順天郷大学韓国母子保健 Center ——京畿道内11箇所の総合センター②順天京天安病院——忠清南道の一部5箇所の総合センター③順天京亀尾病院——慶尚北道一部6箇所の総合センターがノミネートされており、①、②は既に活動しているのである。10箇所中に順天郷大学の3施設がその地域の総合母子保健 Center に指定され、また本プロジェクトの中核をなす順天郷大学韓国母子保健 Center が第三次周産期医療機関、全国母子保健研究所としても指定されたことは誠に当初目的のライン上に合致していることと評価されるものである。

#### 講演会

6月24日（火）午後ソウルのMCHセンター講堂にて森山豊先生、網野枝官、青木博士、私（飯塚）と夫々講演を行った。対象は本センターの医員諸氏である。森山先生は本調査団の目的と開院後の努力をたたえられ今後の協力関係を協調された。網野枝官は公衆衛生的立場から、青木博士は先天代謝異常スクリーニングについて、私はIVF&ERの世界と日本の現状及び私共の関与する施設での現況を述べた。IVF&ERは今後のプロジェクトの一つである。ちなみにソウル大学産婦人科の張教授のお話によれば、同所では既に10例に及ぶ成功例があるというから、此の国の水準の高さを物語っている。Reproductionに関する研究の向上、ひいてはその臨床応用はMCH Centerの開展して行くマスタープランの一つでもあろう。

#### 地方におけるMCHセンター及び地域総合母子保健センター

地方における上記の活動状況を視察のため温陽の順天郷大学のキャンパスを経て大田などに向った。この旅程は事務当局の示す通りである。予定外であったが私は大田乙支病院を見学する機会があった。理事長の朴永夏博士は十数年来の旧知の間であり趙院長、柳病理科長の案内で総合病院としての機能が水準以上であり、ここに同じ構内に忠清南道一部3箇所の総合MCH Centerとして只今建築中であり、これはI. B. R. Dの借款によるものと云う。完成時130ベッドを目標としている。

報恩におけるMCHセンターを見学した（資料8）。保健所長（行政官）がセンター長も兼ねておられるということであるが、人口7万の報恩郡の母子保健活動の第1線としてアクティブに運営されている。この地域には産婦人科専門医はいないといい、G. P. が4人おるといふ。より高度のCareを要するものは50Km離れた清州市の病院（将来は総合母子保健センター、指定済）に送られるという連繋が可成りスムーズに行っているようである。今後この地域の分娩の80%は施設分娩であり皆保険を目標にしているなど、報恩郡長崔萬植氏、保健所長に伺ったのである。このような89の第一線のMCH Centerが各地において運営され夫々の総合センターと連絡を保ちながら実績をあげて行くのは正に今後の課題と思われた。

#### 順天郷天安病院

1984年1月に事前調査団は本院を訪ねている。旧知の金泳錫院長の迎えを受け、1985年8.26よ

り稼働しているMCHセンターの説明と実施を視察した（資料7）。現在、分娩数110例内外の規模と云う。病院内に増設されたフロアにセンターはあり、機能的に General Hospital の特性を生かして運営されている。これは前述の如く、忠清南道の1地区5個所の一線母子保健センターに対する総合センターとしての役割を担って活動中である。

#### 小 括

事前調査及びR/D締結の折の私共の期待は、徐々に結実して行くかの如くである。換言すれば本プロジェクトの韓国母子保健センター設立が契機となり、全国的な組織化と母子保健法改正の端緒の道を開いたとも云えないことはないであろう。既に研修を終えられた方は6人に（1986年6月）達しており、夫々の部署において何らかの有形無形の寄与をされているという。

設置された equipments も順調に寄与しているようである。日本よりの Counter Part の貢献もある程度は評価されてよいであろう。これは相互の人間関係に信頼と友愛の心を芽生えさせる資ともなる。

## (2) 小児科

(青木菊麿)

韓国母子保健センターが開院しておよそ1年が経過したが、その間の稼動状況について小児科の立場から報告する。

### 1. 新生児集中治療室(NICU)運営の現状

NICUは現在ソウル市内の未熟児センターとして活動しているが、今後は第3次医療としての立場でのNICUとすべく内容を充実させつつある。

#### (1) 新生児の実数

これまで扱った新生児は1985年7月から1986年5月迄に1574名に達しており、そのうち低出生体重児は64名、死亡14名である。その他にソウル市内他病院から搬送された30名も含まれており、内容は未熟児9名で最も多く、その他敗血症、黄疸、嚥下性肺炎等新生児特有の疾患である。他病院からのこのような受け入れを今後更に増加させて母子保健センターとしての機能を発揮させるために、ソウル市内250カ所の病院にセンターの案内を発送しており、NICUに収容すれば1000g以下の未熟児でも障害を残すことなく育てられる可能性のあることを強調している。又、NICUへの搬送体制をより確実なものにすべく努力している。

保育器の利用は829名に達しており、NICUを利用した数は435名、モニター類の装着症例数64名、レスピレーター使用症例25名に達しており、これらの機器類は高率に稼動している。将来更に増加する必要があるように思われる。

#### (2) 新生児を対象としたスクリーニングの現況

先天性代謝異常症と先天性甲状腺機能低下症の早期発見を目的としたスクリーニングは1984年から試験的に実施されているが、スクリーニングを受けた新生児はこれまでに743名のみであり、先天性甲状腺機能低下症が1名発見されている。今後更に広範囲にスクリーニングを実施することが望まれる。

### 2. 育児指導の現況

1985年7月からセンターで育児指導を開始しており、指導を受けた数は1986年5月迄に総計4,833名に達しており、毎月増加の傾向を示している。内容は育児相談、栄養指導が主体となっているが、その他に多項目の予防接種も積極的に実施されている。しかし当センターで出生した児の育児指導受診率は平均63%であり、これを100%にするような努力が今後の課題であろう。またこのような育児指導が1つのモデルとして全国に波及していくことが望まれる。

### 3. 母子保健の啓蒙および教育事業

当センターにおいて多方面にわたる母子保健の啓蒙および教育事業が実施されている。その内容は、妊婦や婚前の夫婦を対象にした SAESDAE 育英会後援による教育事業、母子保健要員の研修(社会保健部主催)、母親教室、ソウル市内医師を対象とした教育研修などである。特に母親教室は毎週1回開かれており、妊娠から出産、育児に至る内容が盛り込まれている。



#### 4. 小児科診療の実績統計

1985年1月から1986年5月迄の月別統計によると、外来受診患者数は対前年同月での比較を行うと、今年度に入って1月から5月迄+446名から+1,097名までかなりの増加が見受けられる。入院患者数も急激に増加しており、最近では1985年1～2月頃の5倍近く迄増加しており、外来患者数の伸び率以上に急増している。

外来患者の疾患内容をみると、圧倒的に多いのは感冒、急性上気道炎、急性気管支炎などで、わが国と同様の傾向であるが、その他に肺結核がかなり多数を占めているのが注目される。肝炎が多いようにも見受けられる。その他数は多くないが、リウマチ熱、腸チフス、赤痢などの疾患も外来を受診している。逆にアトピー性皮膚炎、喘息、食欲不振などが増加していることはわが国と類似の傾向であり、疾患の内容からも発展途上国から先進国に至る過渡期にあることがうかがわれる。入院患者についても同様の傾向であり、細菌感染症が比較的多い。その内容は消化器感染症から呼吸器感染症、敗血症などに及んでいる。

#### 5. 研修医師及び看護婦の帰国後の活動

(1) 小児科関係でこれまで日本で研修を受けた韓国要員は以下の3名である。

金 彰輝助教授	……………	小児循環器学
朴 在玉助教授	……………	小児内視鏡及び超音波検査
辛 端麗看護員	……………	N I C Uの看護学

(2) 帰国後の活動状況

##### 1) 小児心疾患の特殊外来開設

先天性心疾患の早期発見、正確な診断と手術の適応決定のための特殊外来を開設し、その他川崎病の追跡調査例も含めて、現在64症例を扱っている。

##### 2) 心臓手術

母子保健センター及び順天郷大学医学部附属病院の胸部外科医、放射線科医、麻酔科医、内科医より成る心臓チームを構成し、正確な術前検査と適応例に対する心臓手術を行っている。開胸心手術は1985年1月から1986年5月迄に統計58例に施行されている。

##### 3) 心臓の超音波による検査例は1984年6月以来これまでに162例に達している。

4) 頭部超音波検査による新生児頭蓋内出血などの診断および腹部超音波診断は現在進行中である。研修終了後間もないが、これまでに6例の超音波診断を行っており、今後の臨床面での活用が期待される。

##### 5) N I C Uでの極小未熟児の管理体制の確立

ガウンテクニックによるN I C Uの管理体制を実施しており、感染症の発生を予防している。その他一般看護員に対して新生児呼吸管理や母子相互作用の問題点について教育している。

### (3) 母子保健ネットワークの形成状況と本センターの位置付け

(網野 豊)

#### 1. 韓国における母子保健行政ネットワークの現状

韓国政府は、1960年代から人口増加を抑制すると共に、家族計画事業に力を入れ、1990年代後半には、人口を4,800万人に抑えるべく子供の数を1夫婦あたり1名と制限しようとしている。従って韓国の将来をにらみ乳幼児の保健対策として現在の乳児死亡率32（分娩千に対して）を低下させるべく母子保健システムの確立、質の向上を図ろうとしている。一方私立大学である順天郷大学が、国内数ヶ所に病院を建設し、地域の母子保健対策に積極的に乗り出そうとしたところ、韓国政府は、医療資源の効率的活用の見地から、遅れている母子保健対策の遂行のため、順天郷大学が設立した母子保健センターを韓国母子保健の中心的存在として民間施設の国家事業への参画を企画した。以来韓国政府は、全国に世銀の融資を受けて、母子保健センター（一次センター）を建設しておりこれまでに89ヶ所が開設された。これら母子保健センターと連携するために、全国の10道を13地域に分割し、各地域に存在する300床以上の民間大学病院または総合病院を二次センターとの位置付けで、地域総合母子保健センターとして指定した（1986年6月末現在3ヶ所は未指定）。

ソウルにある順天郷大学の韓国母子保健センターは、京畿道内における二次センターと同時に全国に対する第三次周産期医療センターと位置付けられており、母子保健総合研究所の機能も併設している。

一次母子保健センターは将来120ヶ所にまで増加する予定であり、その段階で韓国の母子保健ネットワークは一応整備されることになる。しかし現在までのところ、二次センターも10ヶ所中2ヶ所しか稼動しておらず、民間資金による母子保健センターの機能独立にはまだまだ資金及び時間がかかるものと思われる。

又、本来母子保健事業を行うべき保健社会部がどのような形で地域母子保健事業を調整又は指導して行くのかについては未だはっきりした指針はなく母子保健要員の養成、確保の問題も含め、総括的な検討が望まれる。

#### 2. 韓国母子保健法の改正

1986年5月に母子保健法が大幅に改正され公布された（資料9）。この改正母子保健法は同年1月10日より施行されることになっているが、主な改正点は以下の通り。

- ① 国と地方自治体の責任・役割を明示した。
- ② 保健社会部に母子保健審議会を設置した。
- ③ 国と地方自治体が母子保健機構を設置することができるとして、その運営を民間の医療法人又は非営利法人に委託できるようにした。
- ④ 妊産婦の妊娠又は分娩の申告制と母子保健手帳の発給。
- ⑤ 地方自治体の健康管理対象に妊産婦も含めた。

- ⑥ 避妊手術等の事業化。
- ⑦ 大韓家族計画協会の設置。

### 3. 人口プロジェクト（母子保健研究）のためのサブローン契約

このサブローン契約は、1979年12月27日に結ばれた。韓国政府とIBRD（国際復興開発銀行）間のローン契約と、1980年3月11日に結ばれた、韓国政府と保健社会部間の融資契約にのって、同部が母子保健研究を行う順天郷病院の理事長に対しまして貸しできるような取り決めである。

その概要は次の通り。

- ① 融資額は最大98万8,060米ドルまで。
- ② 融資は3期に分割して行われ毎回レポートの提出が要求されている。
- ③ 返済計画は89年1月から97年2月1日までと決められている。
- ④ 研究テーマ（期間は2年間）
  - I-1. 正常新生児の先天代謝異常及び甲状腺機能低下症の発生
  - I-2. 羊水による出生前染色体異常の診断
  - I-3. 児童・妊婦中の血清風疹抗体価の測定
  - I-4. 妊婦・新生児におけるHBウイルス感染の疫学
  - II-1. 農村における母子保健及び家族計画の評価・利用に関する基礎的研究
  - II-2. 母子保健に対する栄養の役割に関するフィールド研究  
(特に農村部における保健従事者の栄養調査訓練について)
  - II-3. 変わりゆく農村における受胎調節と性の役割との相関に関する研究  
(社会文化因子と生殖行動に関する人類学的研究)
  - III. 地域母子保健計画のための管理・情報システムの開発
  - IV. CMCHCを支えるための保健要員の開発及び母子保健情報及び教育資料の普及

## B. 昭和61年度活動計画

昭和61年度活動計画について、事前に入手した各種要請書（専門家、研修員、機材）にもとづいた日本側事前検討結果を韓国側に提示し、先方の了承を得た。

その概要を下に一括して示す（但し専門家派遣時期については調査帰国後に若干の微調整が行われた）。

### 大韓民国母子保健プロジェクト

#### 昭和61年度協力計画

##### I. 専門家派遣

1. 小児循環器	森 彪	埼玉県小児医療センター	8.18 ~ 8.30
	森 川 良 行	慶応大学	11. 3 ~11.18
2. 生殖内分泌学	中 村 幸 雄	慶応大学	8.24 ~ 9. 6
3. 染色体分析・核形分析	木 下 芳 広	慶応健康相談センター	8.11 ~ 8.23
4. 先天性代謝異常	鈴 木 健	東京都予防医学協会	10.20 ~11. 8
5. 地域母子保健	高 野 陽	国立公衆衛生院	11. 3 ~11.18

##### II. 研修員

1. 産婦人科（李 任順）	慶応大学	7. 3 ~12.24
2. 小児科（片 復陽）	国立小児病院	7. 3 ~12.24
3. 麻酔科（金 任）	慶応大学	7. 3 ~12.24

Ⅲ. 機材供与

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量	単位	金額
1	超音波洗浄装置 US-200型S 予浸槽US-200Y~1 煮沸槽US-200B~1 乾燥槽US-200D~1 標準付属品付	サクラ精機	1式		3,070,000
2	総合呼吸能自動解析システム FUDAC-30-SYSTEM-II ATYPE カラーディスプレイ付 標準付属品付	フクダ産業	1式		6,447,000
3	長時間心電図記録解析ユニット SCR-270 内訳 長時間心電図解析記録器TR-210 再生器SD-20 標準付付属品	フクダ電子	1式		7,677,000
4	トランスカプセル V-80TR CM-6600 付属品 高低スタンド CM-6530~1 減圧調整器 酸素用~1 酸素流量計 OX-148J~1 酸素ポンベ(空) OX-103(500ℓ)~2 酸素流量計 OX-102J~1 酸素ポンベ(空) OX-103(500ℓ携帯用) ~1	アトム	1式		1,310,000
5	保育器 V-82SC エアカーテン付 標準付属品付	アトム	2	1,213,000	2,426,000
6	携帯型心電図長時間記録装置 SM-26 標準付属品付		9	864,000	7,776,000
7	輸液ポンプ P-300	アトム	6	397,000	794,000
				合計	29,500,000

品名・仕様	形式	数量	単価(円)	金額(円)
異常陣痛室				
胎児監視装置	2J21SP	2	3,800,000	7,600,000
非観血自動血圧計	845XP	2	700,000	1,400,000
ハイリスク分娩室				
胎児監視装置	2J21SP	1		3,800,000
母体監視装置	2K11	1		2,810,000
非観血自動血圧計	845XT	1		700,000
正常分娩室				
胎児監視装置	2J21SP	1		3,800,000
母体監視装置	2K11	1		2,810,000
非観血自動血圧計	845XT	1		700,000
			小計	23,620,000

品名・仕様	形式	数量	単価(円)	金額(円)
センターモニター				
胎児セントラルモニタ	7D01SP	1		6,000,000
システムコントローラ	2G71SP	1		3,500,000
カラーモニター	8P	1		2,500,000
カラープリンター				
母体セントラルモニタ				
システムコントローラ	7D01SP	1		6,000,000
カラーモニター	2G71SP	1		3,500,000
サーマルレコーダー	6196SP	1		1,000,000
グラフィックプリンタ	SP(2257)	1		1,000,000
コンソール	SP	1		450,000
コンソールカウンタ	SP	1		780,000
			小計	25,280,000
合計				48,900,000

### Ⅲ、 総 括

森山 豊

昭和59年度より5年計画で実施されている韓国母子保健センターに対するJICAの援助計画の進捗状況を視察するため、昭和61年6月23日（月）から28日（土）まで（私は27日まで）一行5名で順天郷大学医学部の韓国母子保健センターを視察した。（森山、飯塚、青木、加藤、網野）

本センターは1985年7月に竣工、事業を開始した。従来病院部門にあった産婦人科、小児科の外来、入院施設、臨床検査部門が新築のセンターに移り、さらに未熟児施設（NICU）、小児保健指導部門等が充実し、外来、入院者何れもセンター設置前の2倍に増加したとのことである。

新設の韓国母子保健センター設置の意義と、今後の役割に関連して記述する。

#### 1. 韓国母子保健の現状

韓国の人口は約4,000万、1980年の平均寿命は65.9歳で、当時のわが国より約10年短い。

また1980年の妊産婦死亡率は4.2（出生1万対、わが国は同年2.0）乳児死亡率は32.0（出生千対、わが国は7.5）で、いずれもわが国より高率である。

韓国の医学水準はわが国と格差なく、また韓国の最近の経済発展はまことに目覚ましいものがあるにもかかわらず、このような母子保健状態が悪いのは、全国民を対象とした母子保健対策が不十分なためと考えられ、ここに全国を対象とした母子保健センター設置の意義がある。

#### 2. 韓国の一人っ子政策

韓国政府は国民生活の向上のため、1960年代から人口政策に重点をおいて家族計画推進に努力した結果、人口増加率を大幅に減少させたが、今後さらに1990年代後半の人口数を4,800万に抑えることを目標としている。このため昨年までは一家庭2子制であったが、本年より一人っ子政策に転換した。

#### 3. 母子保健対策

このような一人っ子政策の決定により、韓国政府は母子保健を他の保健事業に先んじて重視、実施することになり、次のような対策を進めている。

- (1) 世界銀行よりの融資により、全国各地域に89カ所の第一線母子保健センターを設置した。
- (2) この母子保健センターの中核として、1986年5月にベッド300床以上の10カ所の総合病院内に地域総合母子保健センターを指定した。
- (3) 1986年4月8日韓国国会において従来の母子保健法が改正され、今後国の母子保健事業に、民間医療機関も参画できるようになった。
- (4) この母子保健法の改正により、ソウル市の順天郷大学の韓国母子保健センターは、国から第3次周産期医療機関、全国母子保健研究所として指定された。

これによって今後、この順天郷大学の韓国母子保健センターは私立大学ではあるが、全国の89カ所の第一線母子保健センター、その上の10カ所の総合母子保健センターの中核として国より認められ、格付けされた。

このため、わが国がこの順天郷大学の韓国母子保健センターを援助することは、単に一私立大学を



援助するに止まらず、韓国全体の母子保健と国民福祉の向上に寄与し、日韓両国ひいてはアジアの発展、平和の増進に大きな意義をもつものである。

また、この韓国母子保健センターを中核とした母子保健組織の強化・充実によって、韓国母子保健は、予想よりも速かに改善されると考えられ、その点わが国の援助・協力は大きな意義を持つということができる。

資 料 リ ス ト

① 母子保健センター「事業報告書」	2 1
② 小児科活動現況	5 1
③ 1985・86年 科別月別患者統計	9 9
④ 産婦人科手術年報	1 0 1
⑤ 全国母子保健センター85年度事業実績	1 1 9
⑥ 全国母子保健センター人員現況報告	1 2 7
⑦ 順天郷大学天安母子保健センター概観	1 3 5
⑧ 報恩郡母子保健センター運営現況	1 4 5
⑨ 改正母子保健法	1 4 9
⑩ 救急車利用状況	1 5 6

参考資料（収録せず）

- ① 母子保健手帳（韓国母子保健センター作成）
- ② 報恩母子保健センター妊産婦登録様式
- ③ 母子保健研究のためのIRBD借款再転貸契約書（韓国語）  
同 上 （英 語）

## 資料1 事業報告書



# 事業報告書

日韓技術協力に依る順天郷大学  
韓国母子保健Center事業(第一次)

順天郷大学  
韓国母子保健Center  
SEOUL KOREA

1986. 6. 23



本報告は韓国母子保健事業に関する日韓技術協力協定書 ( The Record of Discussions between the Japanese Implementation Survey Team and the Authorities Concerned of the Government of the Republic of Korea on the Japanese Technical Cooperation for maternal and Child Health Project ) ( 以下 R/D と稱する )

が調印と共に発効した順天郷大學韓国母子保健 Center 事業の第一次報告書であり期間は 1984 年 4 月から 1986 年 5 月 31 日間である。

#### I. 準備期間 ( 1984 年 4 月 ~ 1985 年 3 月 )

- 1) R/D 調印 : 1984 年 4 月 6 日 韓国保健社會部保健局長室に於て 日本側代表飯塚理八教授 ( 慶應義塾大學醫學部産婦人科教授 ) と韓国側代表 李柱源 博士 ( 保健社會部保健局長 ) 間で R/D が調印された。

出席者 :

日本側 : 外務省, 厚生省, 日本國際事業協力團,  
駐韓国日本大使館の各關係官。

韓国側 : 保健社會部家族保健課長, 科學技術處地域協力課長, 順天郷大學韓国母子保健 Center 所長。

- 1) - 1 事業名 : 順天郷大學韓国母子保健 Center 事業
- 1) - 2 目的 : 韓国 Seoul 所在順天郷大學母子保健事業を強化させる事に依り韓国母子保健事業發展に寄與する。

1) - 3 概要 :

i) 韓国側 : この事業に必要な空地, 建物, 人員及び日本供與分以外の  
器材確保。

ii) 日本側 :

a) この事業に必要な韓国要員の日本内研修

b) この事業に必要な日本専門家の韓国派遣

d) この事業に必要な医療器材の供與

iii) 協力期間 : 1984年8月1日~1989年7月31日(5年間)

2) 順天郷大學母子保健 Center の機構, T/O の決定, 要員の發令

2) - 1 機構表, T/O : 別添 ( NO. 1 )

2) - 2 要員發令 :

所長兼 病院長 : 教授 俞 勳

地域母子保健事業部長 : 教授 方 椒

研 究 部 長 : 教授 姜 得 龍

行 政 室 長 : 次長 李 鍾 勳

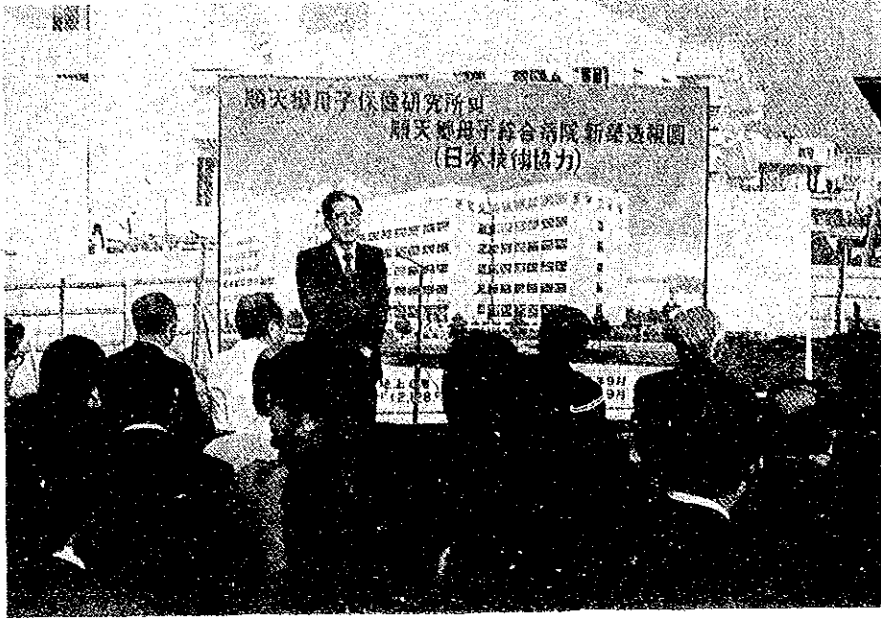
3) 諮問委員委囑 :

事業の重要性から母子保健關聯専門家及關聯大學教授 9 名を本 Center  
の諮問委員として委囑した : 別添 ( NO. 2 )

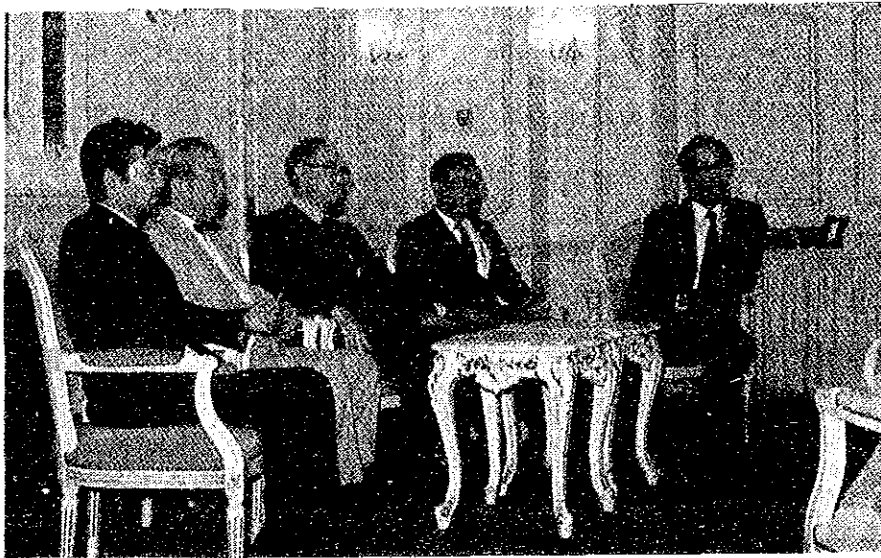
4) Center 建物の建築推進



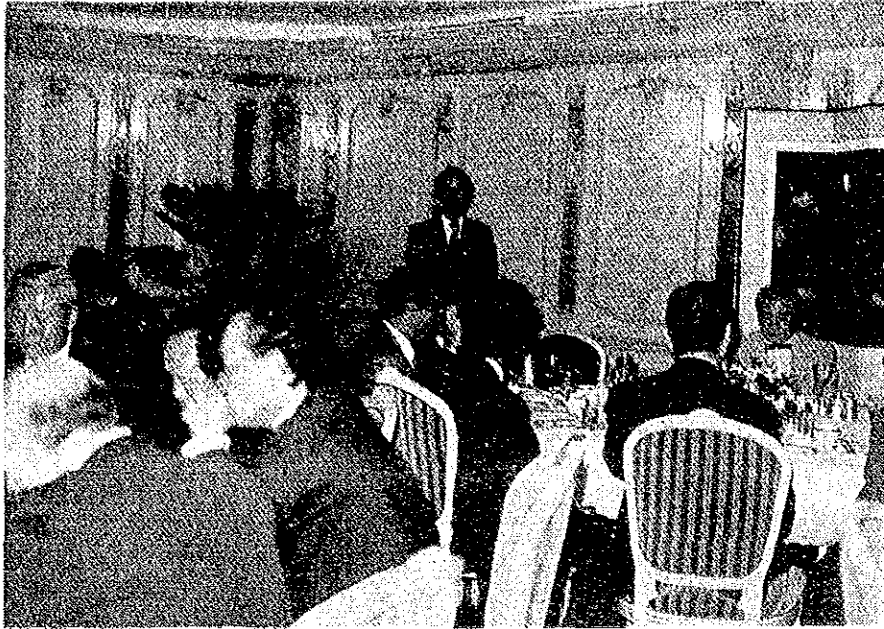
順天鄉大學韓國母子保健Center 起工式  
( 1983 年 11 月 19 日 )



5) 第 1 次日本専門家來韓：( R/D Attached Document II - 1 に依る )



第一次日本専門家の  
特別講演後記者會見



第一次専門家と Seoul 所在各大学  
産婦人科主任教授及関係官との懇談會

飯塚理八教授（生殖醫學）慶應義塾大学醫學部

坂元正一教授（周産期學）日本女子医科大学

青木菊磨博士（新生兒管理）愛育會総合母子保健 Center

1984 年 10 月 16 日～20 日

各専門分野別全般的將來計劃を指導し 又分野別特別講義が行はれた。

6) 第一次韓國要員の研修派遣：（R/D Attached Document・IV-1に依る）

李英周 講師（生殖醫學）：1984 年 11 月 21 日～1985 年 4 月 21 日

金彰輝 講師（小兒循環器學）：1984 年 11 月 21 日～1985 年 4 月 21 日

李東華助教授（羊水培養）：1984 年 11 月 21 日～1986 年 2 月 4 日

7) 第二次 韓國要員の研修派遣

李權海 助教授(周産醫學) 1985年11月25日～1986年5月19日

朴在玉 助教授(小兒内視鏡) 1985年12月4日～1986年6月4日

申端麗 看護員(NICU) 1985年12月4日～1986年2月4日

8) 日本供與器材設置:( R/D Attached Document III-1,2に依る)

第一次年度及第二次年度の器材が到着し日本から派遣された技術者に依りそれぞれ設置が完了した(別添List NO.3.4)

II. 事業開始:( 1985年4月～1986年6月)

1) 順天郷大學韓國母子保健Center竣工:

1985年7月1日日本Centerの建物が竣工し事業を開始した。

地 地: 1,986  $m^2$

建 物: 地下2階 地下6階,

延面積: 7,131  $m^2$

2) 開院式: 1985年7月12日の吉日を選び待望の開院式を舉行した。式後

日本との技術協力に関する懸板の除幕式も行はれた。



開院式にて日韓技術協力に関する沿革を説明する所長



開院式にて日本側来賓の紹介をする理事長



2) - 1 開院式に参席された重要来賓 :

( 日本側 )

御巫清尙 駐韓國日本特命全權大使

荒 義尙 駐韓國日本公使

下村正之 駐韓國日本参事官

飯塚理八 慶應義塾大學醫學部教授

森山 豊 日本母性保護醫協會會長

青木菊麿 愛育會總合母子保健Center小兒科部長

(韓國側)

崔永喆 大韓民國國會副議長

李海元 保健社會部長官

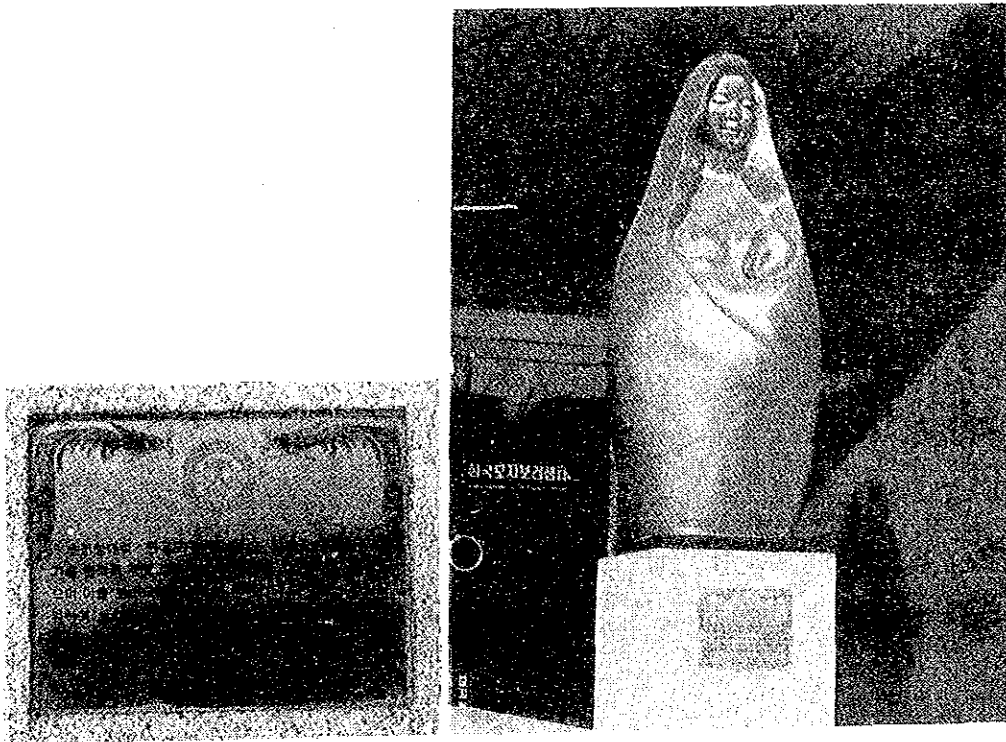
文太俊 大韓醫學協會會長

白樂暉 大韓病院協會會長

柳元夏 保健社會部保健局長

本Center 諮門委員 及其他

2) - 2 除幕された 懸板内容 (譯文)



順天郷大學韓國母子保健Centerは日本國の醫療技術協力並に重要醫療器材の供與がその基礎をなし、これを土台に將來兩國間の母子保健向上に努力することを誓いながら本Center設立に貢獻して下さった兩國關係諸氏に感謝の意を表するためここに記します。

1975. 7. 1.

3) 研究委員會發足並に研究題目決定：

母子保健の臨床基礎的研究及地域母子保健活生化をめざし 1986年2月

下記の如く研究委員會を發足させると共に研究題目を決定した。

3) - 1 委員會：

委員長：教授 姜得龍（研究部長）

共同委員長：教授 方 淑（地域母子保健事業部長）

委員：教授 俞 勳（Center 所長）

〃：教授 趙泰鎬（産婦人科 主任教授）

〃：教授 李尙柱（小兒科 主任教授）

〃：助教授 李東煥（小兒科）

〃：講 師 李英周（産婦人科）

3) - 2 研究題目:

Research No.	Title	Investgator
I-1	The Incidence of Inherited Metabolic Disorders and Hypothyroidism in the Korean normal Newborns	Lee, D. H.
I-2	Cytogenetics prenatal Diagnosis of Chromosomal Abnormalities from Amniotic Fluid	Lee, Y .J.
I-3	Measurement of Serum Rubella Antibody Titers in Korean children and pregnant women.	Lee, I. S.
I-4	The Epidemiology of HB virus infection in Korean pregnant women and Newborns	Lee, D. H.
II-1	Baseline studies on Risk assesment & utilization of MCH/Fp services in rural Korea.	Han, S. H.
II-2	Action-cum-Research on integration of the nutrition component into MCH Care.	Kim, Y. O.
II-3	Anthropological study on social and cultural factors reproductive behavior.	Kim, E, S.
III	The Development of management & Inform- ation systems for a Community-basd MCH Care program	Bang, S.
IV	Development of Health manpower and Dissemination of Information and educational materials in in MCH to support CMCHC project	Han, S. H.



4) 保健社會部主管一線母子保健 Center 巡回教育。

4) - 1 第一次巡回教育 1984. 3.16 ~ 3.19

京畿道, 江原道, 忠清南道地域

參加者: 所長 教授 兪 勳

4) - 2 第二次巡回教育 1985. 9.5 ~ 9. 8

全羅南道, 全羅北道地域

參加者: 所長 教授 兪 勳

5) SAESDAE 育英會主管豫備夫婦及妊婦教育

5) - 1 第一次教育: 1985. 9.17

場 所: 順天鄉大學韓國母子保健 Center

參加人員: 130 名

教 育: 所 長 兪 勳 教 授

小兒科 李 東 煥 助 教 授

5) - 2 第二次教育: 1985. 1.30

場 所: 順天鄉大學韓國母子保健 Center

參加人員: 110 名

教 育: 婦人科 李任順 講 師

小兒科 李 東 煥 助 教 授

6) 保健社會部主管第一次母子保健 Center 要員集合教育

時 日: 1985 年 11 月 23 日

場 所: 順天鄉大學韓國母子保健 Center

參加人員：42名

- 講 師：1. 保健社會部家族保健課長  
2. 韓國人口保健研究院母子保健擔當研究官  
3. 順天鄉大學韓國母子保健Center  
所長 俞 勳 教授  
地域母子保健事業部長 教授 方 椒  
小 兒 科 助教授 李東煥

7) 第二次日本專門家來韓

7) - 1 名取道也 (慶應義塾大學醫學部產婦人科)

產婦人科醫工學專門家で1985年10月2日～1985年10月13日間胎兒監視裝置, 超音波教育を實地教育した。

7) - 2 小林俊文 (慶應義塾大學醫學部產婦人科)

不妊症の專門家として1985年10月11日～10月20日間 當Center 不妊Clinicで實地教育を行い不妊患者の診斷及治療指針を作成した。

8) 母親教室運營實績

8) - 1 教育內容

8) - 2 1985年8月7日～1986年5月3日 (每週水曜日)

總受講人員：853名

9) 妊婦登録及分娩 (1985. 7. 1～1986. 5. 31)

總登録數：2,757

總分娩數：1,615

10) 育兒指導會 ( 1985. 7. 1 ~ 1986. 5. 31 )

豫防接種總人員：6,879

育兒指導總人員：4,397

10) - 1 母親教室教科目：

妊娠の生理	小兒の疼痛
出産準備及分娩	小兒精神健康
小兒の營養	小兒の成長發達
產褥期管理	妊娠中異常
豫防接種	妊産婦の營養
營養食實習	妊産及家族病院見學

10) - 2 豫防接種項目

DPT	Measles
D, T	Hepavax
Pertussis	H-B-Vax
Sabin	Encephalitis
m-m-R	B.C.G
	5-TU
	1-TU

Open Heart Surgery From Jan. 1985 to May 1986

C.H.D.	Age		1-5yrs		5-10yrs		10-15yrs		Total		Death case	
	Sex		M	F	M	F	M	F	M	F	M	F
VSD			4	3	6	4	3	6	13	13	1	1
+ AI					1				1			
+ PDA					1				1			
+ Dextrocardia			1						1			
ASD			3		1	4		2	4	6		
+ PS					1	1			1	1		
+ PAPVR				1	1				1	1		
ECD			1					2	1	2		
+ Cor Triatria												
-tum								1		1		
TOF			2		1			1	3	1	1	
TGA+VSD+PS							1		1			
MVP								1		1		
Pul. A. hypoplasia					1				1			
MSR+TR								1		1		
PDA				1	1	1			1	2		
Subtotal			11	5	14	10	4	14	29	29	2	1
Total			16		24		18		58		3(5.17%)	

Echocardiographic Examination Cases<sup>2</sup> from Jun. 1984 to May 1986.

Month	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	Total
1984	-	-	-	-	-	6	6	3	-	8	14	-	37
1985	-	-	-	9	10	15	18	11	11	4	5	7	90
1986	7	5	6	9	8								35
Total													162

Year	Month	Normal delivery	Cesarean section	Maternal death	Neonatal death(rate)	Still birth
1974	5-12	173	45			
1975		469	87		1	6
1976		749	111	1	5	6
1977		1,253	176		3	9
1978		1,519	239		4	12
1979		2,036	410	1	2	19
1980		1,574	354		1	6
1981		1,433	366			13
1982		1,377	330		8	10
1983		1,023	256	1	2	9
1984		796	254		3	12
1985	1 - 6	331	125			7
Total		12,733	2,749(215%)	3	29(1,9)	109
1985	7-12	676	209(30 %)	1	2	4
1986	1 - 5	579	150(259%)		6	8
Total		1,255	359	1	8(5.0)	12

Ultrasonogram

Date	OB	GY	
'85. 7	85	54	
8	77	56	
9	63	51	
10	79	38	
11	81	38	
12	59	32	
'86. 1	89	33	
2	75	45	
3	45	15	
4	36	39	
5	32	40	
6. 18	31	17	
Total	752	458	1,210

### Ⅲ. 政府母子保健事業への參與：

韓國政府は 1960 年代から人口政策に重點をおき家族計劃事業に全力を盡した結果人口増加率を大幅に減少させると共に 1990 年代後半の人口を 4,800 萬線で低くとり人口増加率 0% (停止人口) の目標を 2025 年にとって保健政策を推進させて居る。かかる目標は一家口 2 名から一家口 1 名への大轉換が必要となると共に 一家口 1 名のこの 1 人 1 人を誰かが責任をとって精神的, 肉體的に健康な人的資源に作り上げなければならないと云う二つの大きな問題點をになうことになった。特に嬰乳兒死亡率 32/1000 分娩と云う現状下では他の保健政策に先んじて母子保健事業の絶對的必要性を痛感した政府は I.B.R.D 資金に依り先づ 89 個所の一線母子保健 Center を建設した。

#### 1) 政府の基本政策方向：

- 1) - 1 母子保健登録管理事業の強化
- 1) - 2 一線母子保健 Center の運営活性化
- 1) - 3 母子保健法の再整備

1986 年 4 月 8 日母子保健法改正法律案を國會で通過させ母子保健事業の活性化に必要な民間醫療機關の本事業への參與根據を完備させた。

- 1) - 4 89 個所の一線母子保健 Center を中心とした母子保健地域化事業に必要な 10 個所の分割地域を設定すると共に各地域に一線母子保健 Center を指導する 300 BEDS 以上の民間大學病院又は綜合病院を指定した。

2) 順天郷大學韓國母子保健 Center の立場 :

本 Center は日韓技術協力の目的が “本 Center の事業を強化させることに依り韓國母子保健事業發展に寄與する” と云う大前提にたつて居る。この様な立場から本 Center の初期計劃のうち地域母子保健事業は附屬病院である忠清南道順天郷天安病院, 慶尙北道の順天郷龜尾病院, 忠清北道の順天郷陰城病院をそれぞれ地域母子保健 Center としての役割をあたえ 3 個所に地域母子保健事業の示範事業を行つてその結果を政府母子保健事業政策に反映させる豫定であつた。

ところが 1984 年日韓母子保健技術協力が發効した時期に政府の一線母子保健 Center の建設も終り業務を始め一方では本大學が民間としては始めてこの事業に一步踏み出したと云う事は政府にとつても非常な強みを感じると共に強力な政策推進が出來た基礎にもなつた。その結果 1986 年 5 月 21 日官民協同事業として下記の如く 10 個の地域綜合母子保健 Center が指定された (別添 NO. 5 )

① 順天郷大學韓國母子保健 Center :

- i) 京畿道内 11 個所の一線母子保健 Center に對する地域總合母子保健 Center としての役割。
- ii) 全國母子保健總合研究所としての役割。
- iii) 第三次周産期醫療 Center としての役割。

② 順天安天安病院

- i) 忠清南道一部 5 個所の一線母子保健 Center に對する地域綜合母子保健 Center としての役割



ii) 順天郷龜尾病院

慶尙北道一部 6 個所の一線母子保健 Center に對する地域総合母子保健 Center としての役割。

iii) 大田乙支病院

忠清南道一部 3 個所の一線母子保健 Center 。

iv) 全州基督病院

全羅北道 9 個所の一線母子保健 Center 。

v) 光州基督病院

全羅南道一部 15 個所の一線母子保健 Center 。

vi) 春川翰林大學病院

江原道一部 14 個所の一線母子保健 Center 。

vii) 清州 Seoul

忠清北道 9 個所の一線母子保健 Center 。

viii) 安東誠蘇病院

慶尙北道一部 8 個所の一線母子保健 Center 。

ix) 釜山日新基督病院

慶尙南道一部 7 個所の一線母子保健 Center 。

上記の如く 10 個所の診療圏の中順天郷大學が 3 個所の地域総合母子保健 Center に指定され一方當順天郷大學韓國母子保健 Center は第三次 周産期醫療機關，全國母子保健研究所としても指定された事は日韓技術協力の本精神が韓國全體の母子保健向上に寄與すると云う點で一致し日本，韓國兩國にとっても價值ある事業として評價されてよいと思う所である。

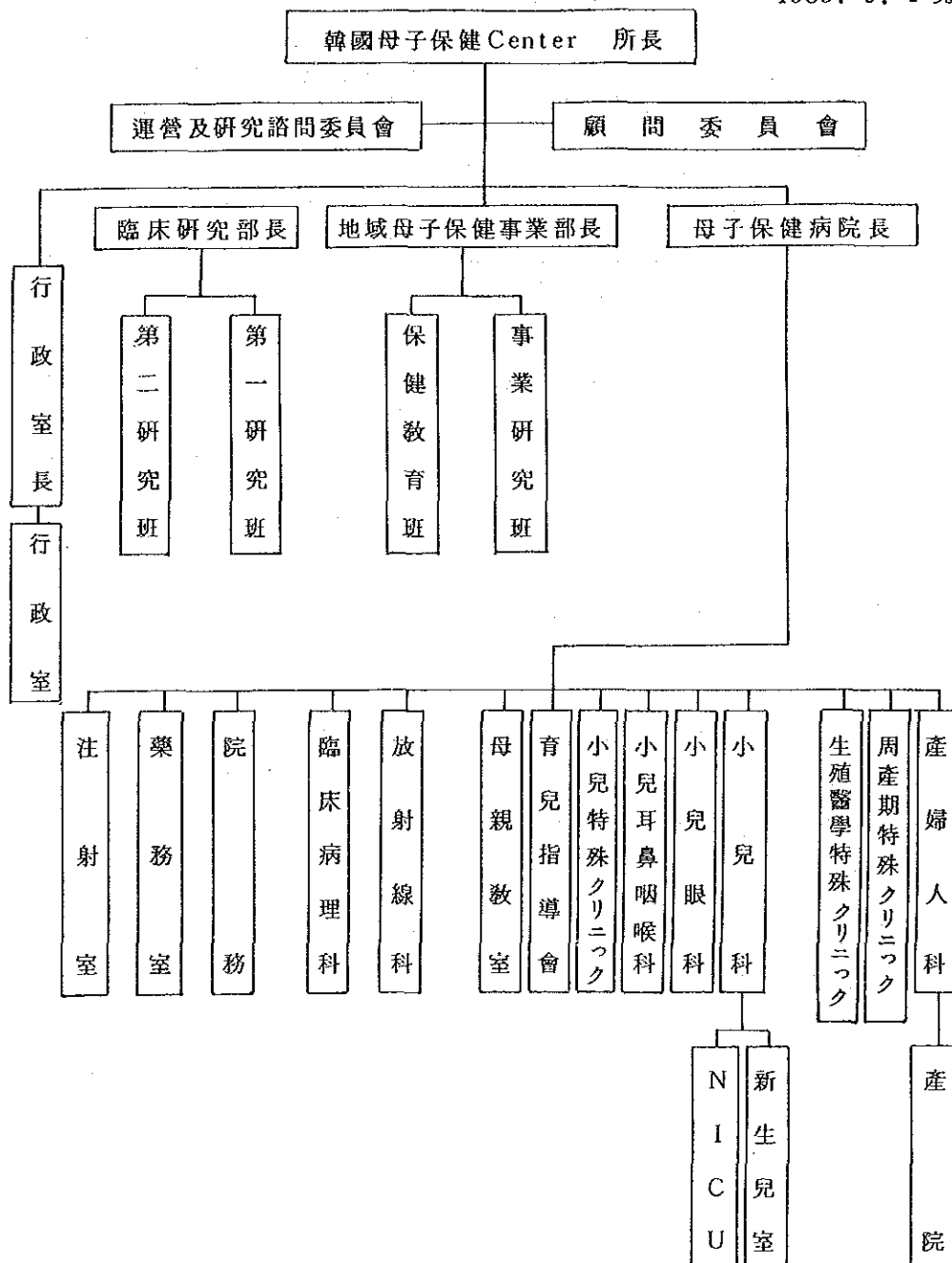
### Ⅲ. 結 論 :

以上は 1984 年 4 月 R/D 調印から 1986 年 5 月までの當 Center の事業中間報告であるが二年間はその大部分を準備期間としてその基礎かためについやし本事業は 1986 年 6 月から 3 年間と云うことにたるが本 Center としての基本計画は次の通りである。

- 1) 母子保健, 周産期に関する基礎臨床的な研究を行いその結果を Feed back することに依りこの事業の効果を高める。
- 2) 母子保健各種統計値の正確な作成事業のため保健社会部と協力する。
- 3) 現在指定された 10 個所の地域総合母子保健 Center の中施設, 人員, 機材等が完備されたのは本 Center と順天郷天安病院の 2 個所だけであるのでこの二つの地域を示範地域として地域母子保健事業を始めその結果を政府地域母子保健事業政策に反映させる。
- 4) Seoul 特別市の都市型母子保健事業。
- 5) 母子保健事業に関する弘報, 教育資料の開発に努力する。
- 6) 日本との技術, 情報, 交換並に母子保健共同 Seminar を計画する。

國韓母子保健Center 機構表

1985. 9. 1 現在



## 人 員 現 況

1. 醫師職 1986年 1月 1日 現在

科 別 \ 區 分	專 門 醫	專攻醫3年次	專攻醫2年次	專攻醫1年次	Intern	計
產 婦 人 科	6	6	6	8	2	28
小 兒 科	7	5	6	7	2	27
計	13	11	12	15	4	55

2. 看護職

科 別 \ 區 分	首看護員	主任看護員	RN	AN	病院補助	計
5 病 棟	1	1	11	3		16
6 病 棟	1	1	7	3		12
分 娩 室	1	1	6	3	1	12
新 生 兒 室	1	1	14	4		20
產婦人科外來			1	5		6
小兒科外來			1	7		8
育兒相談室			1	2		3
計	4	4	41	27	1	77

3. 行政職

課 別 \ 職 位	行政室長	係 長	事 務 員	計	備 考
行 政 室	1		3	4	
院 務		1	8	9	
醫 務 記 錄			2	2	
計	1	1	12	15	

4. 藥務職

科 別 \ 職 位	主 任	藥 師	藥 師 補	計
藥 劑	1	1	1	3
計	1	1	1	3

5. 醫療職

科 別 \ 職 位	主 任	技 士	技 士 補	計
放 射 線 科	1	1	1	3
計	1	1	1	3

6. 技能職

課 別 \ 職 位	汽 罐 工	電 工	運 轉	守 衛	案 內	計
施 設 課	2	2				4
總 務 課				8	2	10
行 政 室			1			1
計	2	2	1	8	2	15

※ 總人員：168名

諮 問 委 員 名 單

韓國人口保健研究院	院長	朴 贊 武	博士
韓國不妊施術協會	會長	金 世 景	博士
韓國不妊施術協會	副會長	裴 炳 胃	博士
서울大學校醫科大學	產婦人科	張 潤 錫	教授
서울大學校醫科大學	小兒科	高 光 昱	教授
延世大學校醫科大學	產婦人科	郭 顯 模	教授
延世大學校醫科大學	小兒科	陳 東 植	教授
高麗大學校醫科大學	產婦人科	洪 性 鳳	教授
가톨릭醫科大學	小兒科	李 斗 鳳	教授

THE LIST OF EQUIPMENT DONATED FROM JIKA FOR THE 1ST YEAR

\*\*\*\*\*

<u>No.</u>	<u>Nomenclature</u>
1.	Infant Warmer, Stand Style PF-150
2.	Fetal Monitoring Center System
3.	Kymographic Insufflation KH-600
4.	Premature Incubator, C-86-B
5.	Intensive Care Incubator , C-86-B, PR-022
6.	Infant Ventilator, PB-800
7.	Neonatal Monitoring System, with TCPC, Monitor 1F-3B
8.	Neonatal Monitoring System, Model-2K01
9.	Incubator Model, 1-1F-3B
10.	Incubator Model, 1-1C-160
11.	Sterilizer Model, ASV-3001
12.	Blood Gas Analyzer, ABL-30
13.	Portable X-Ray, Hitachi 100B
14.	Electron Microscope, Hitachi-300
15.	Ambulance, Toyota, Crown
16.	X-Ray Film Processor, GX-300
17.	Doppler Ultrasonic Fetal
18.	Aminoacid Analyzer, Model-835-30, Hitachi

別添No. 4

THE LIST OF EQUIPMENT DONATED FROM JIKA FOR THE 2ND YEAR  
\*\*\*\*\*

No.	Nomenclature
1.	Circulatory-Organ X-Ray Examination System Model DH-1513T
2.	Anesthesia Machine for Painless Delivery "SANRAC"
3.	Linear Electronic Scan Ultrasonic Tomograph 2H-71
4.	Amnioscope Ser
5.	Air-Shield Double Wall Incubator C-100
6.	Portable Couveuse ACDC
7.	Multi-Monitor 2K-11
8.	Infant Warmer Stand Style PF-150
9.	Auto Smear CF-12C
10.	Auto Dry Heat Sterilizer HE-11
11.	Drying Oven TK-11

診療圏別母子保健Center 及 地域母子保健Center 分布圖

The Distribution Chart of Catchment Areas

